



平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月2日

上場取引所 東

上場会社名 山崎製パン株式会社

コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 吉田 輝久

TEL 03-3864-3110

四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第2四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第2四半期	520,668	2.4	19,458	50.8	19,767	45.6	9,398	135.5
27年12月期第2四半期	508,652	4.2	12,900	23.9	13,573	23.2	3,991	△45.6

(注) 包括利益 28年12月期第2四半期 4,532百万円 (△65.2%) 27年12月期第2四半期 13,031百万円 (51.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第2四半期	42.83	—
27年12月期第2四半期	18.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第2四半期	673,580	296,300	40.5
27年12月期	700,997	295,614	38.8

(参考) 自己資本 28年12月期第2四半期 273,132百万円 27年12月期 272,283百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	—	—	16.00	16.00
28年12月期	—	—	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,051,000	2.3	34,000	25.9	35,000	23.7	17,000	53.2	77.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年12月期2Q	220,282,860 株	27年12月期	220,282,860 株
28年12月期2Q	842,661 株	27年12月期	832,947 株
28年12月期2Q	219,445,511 株	27年12月期2Q	219,463,708 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、第2四半期決算短信補足説明資料の6ページにセグメント別の売上高及び営業利益の予想を記載しております。

当社は、平成28年8月5日(金)に機関投資家及び証券アナリスト向け四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(四半期連結損益計算書)	8
(四半期連結包括利益計算書)	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
4. 補足情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成28年1月1日～平成28年6月30日）におけるわが国経済は、円高の進行や中国経済の減速の影響もあり景気は足踏み状態となり、個人消費は力強さを欠くものとなりました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が根強い市場環境の下で販売競争が激化する厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の拡販につとめ、高品質・高付加価値戦略を推進するとともに、品質を向上させた値頃感のある製品を発売するなど、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略を推進してまいりました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、当社グループの総力を挙げて「ヤマザキベストセレクション」を中心にパン、和洋菓子、米飯、サンドイッチ、調理麺の品質向上と新製品開発に取り組むとともに、デイリーホットベイクの強化につとめ、キャンペーンを活用して店舗売上の増加をめざしました。また、デイリーヤマザキのリージョンと当社の各工場が一体となって店舗運営の改善や店舗開発につとめました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は5,206億68百万円（対前年同期比102.4%）、営業利益は194億58百万円（対前年同期比150.8%）、経常利益は197億67百万円（対前年同期比145.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は93億98百万円（対前年同期比235.5%）となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門（売上高502億86百万円、対前年同期比103.0%）

食パンは、「ロイヤルブレッド」、「超芳醇」、「ダブルソフト」の3大ブランドを中心に、品質訴求による取扱拡大をはかるとともに、「ヤマザキゴールドシリーズ」の新製品「レーズンゴールド」、「チーズゴールド」がお客様の好評を得て大きく伸長したこともあり、数量・販売単価ともに上昇し好調な売上となりました。

②菓子パン部門（売上高1,820億14百万円、対前年同期比102.4%）

菓子パンは、品質を向上したヤマザキ菓子パンや「ホワイトデニッシュショコラ」などのペストリーが伸長するとともに、4月から食材食パンの品質を向上した「ランチパック」が回復傾向となり、また、新製品「北海道産小麦のバターロール」の寄与により食卓ロールが伸長するなど、順調な売上となりました。

③和菓子部門（売上高339億91百万円、対前年同期比103.1%）

和菓子は、串団子や大福が堅調に推移し、「山崎謹製」シリーズが伸長するとともに、中華まんの売上増に加え、「生どら焼」などのチルド和菓子の寄与もあり、好調な売上となりました。

④洋菓子部門（売上高665億8百万円、対前年同期比99.8%）

洋菓子は、新製品の投入もあり「プレミアムスイーツ」が伸長するとともに、2個入ケーキや2月にリニューアル発売した「まるごとチョコバナナ」が好調に推移しましたが、売上は前年同期並みに止まりました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高721億14百万円、対前年同期比105.8%）

調理パン・米飯類は、㈱サンデリカにおいてコンビニエンスストアチェーンとの取引が拡大し、大幅な売上増となりました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高809億97百万円、対前年同期比103.4%）

製菓・米菓・その他商品類は、ヤマザキ・ナビスコ㈱の「チップスター」、「エアリアル」などのスナックが大きく伸長するとともに、㈱不二家の「カントリーマアム」や「ホームパイ」が順調に推移し、好調な売上となりました。

以上の結果、食品事業の売上高は4,859億13百万円（対前年同期比102.8%）、営業利益は194億68百万円（対前年同期比145.1%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、営業総収入は299億54百万円(対前年同期比95.5%)、営業損失は9億83百万円(前年同期は13億38百万円の営業損失)となりました。直営店の減少により営業総収入は減少しましたが、直営店の重点管理を拡大し収益改善をはかったことにより、収益面では回復傾向となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は48億円(対前年同期比103.0%)、営業利益は6億89百万円(対前年同期比128.2%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は6,735億80百万円で、前連結会計年度末に対して274億16百万円減少しました。流動資産は2,440億61百万円で、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して136億8百万円減少しました。固定資産は4,295億19百万円で、投資有価証券の減少等もあり、前連結会計年度末に対して138億8百万円減少しました。負債合計は3,772億79百万円で、前連結会計年度末に対して支払手形及び買掛金の減少や借入金の返済による減少等もあり、281億2百万円減少しました。純資産は2,963億円で、その他有価証券評価差額金が減少しましたが、利益剰余金の増加等もあり、前連結会計年度末に対し6億85百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は40.5%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益185億30百万円に加え、減価償却費175億57百万円、売上債権額の減少243億43百万円などにより451億2百万円のプラスとなりました。前年同期に対しては99億2百万円収入が増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得などにより163億円のマイナスとなりましたが、前年同期に対しては18億6百万円支出が減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金の支払などにより153億51百万円のマイナスとなりましたが、前年同期に対しては35百万円支出が減少しました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は1,220億13百万円となり、前連結会計年度末残高に対しては132億97百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は景気の先行き不透明感が広がり、個人消費は停滞感が増すことが懸念されます。

当業界にありましては、お客様の生活防衛意識が高まるなかで節約志向が鮮明となり、更に厳しい経営環境になるものと思われまます。

このような状況下にあります、当社グループは、引き続き品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の取扱拡大をはかり、高品質・高付加価値戦略を推進するとともに、製品規格を充実させ価値感のある製品提供につとめるなど、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、業績向上につとめてまいります。

ヤマザキ・ナビスコ(株)は、モンデリーズ・インターナショナル・インクとのライセンス契約終了に伴い、平成28年9月1日をもってヤマザキビスケット(株)に商号変更し、新たに出発いたします。「チップスター」や「エアリアル」などの既存製品を継続販売するとともに、長年培った技術をもとに新たな製法を用いたクラッカー「ルヴァン」やサンドビスケットシリーズ「YBCスタンドバック」などの新製品を発売し、積極的に拡販してまいります。当社グループは総力を挙げて、ヤマザキビスケット(株)と一体となって事業を推進してまいります。

また、平成28年12月1日には、当社創業の地である市川工場跡地に「山崎製パン株式会社総合クリエイションセンター(仮称)」(中央研究所、総合研修所、飯島藤十郎社主記念ホール)のランドオープンを予定しております。総合クリエイションセンター内の中央研究所においては、生産本部と一体となった製品開発に寄与する研究開発を強力に推進するとともに、総合研修所においては、21世紀のヤマザキの経営方針を中心とした研修体制を整備して管理職研修や階層別研修を実施

し、研究開発・人材育成の充実強化をはかる場として 21 世紀のヤマザキの前進基地といたします。飯島藤十郎社主記念ホールにおいては、地域に相応しい利用を通じて地元市川市や千葉県への社会貢献をはかるとともに、ヤマザキの創業の精神の充実強化のために有効活用してまいります。

さらに、当社グループ一丸となって内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を創造して業績向上を期してまいります。

以上のことから、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、平成28年2月12日に公表いたしました通期（平成28年1月1日～平成28年12月31日）の連結業績予想を修正し、売上高1兆510億円、営業利益340億円、経常利益350億円、親会社株主に帰属する当期純利益170億円といたしました。

業績予想の修正の詳細につきましては、本日公表いたしました「平成28年12月期第2四半期累計期間における業績予想値と実績値との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
（会計方針の変更）

（企業結合に関する会計基準等の適用）

① 会計基準等の名称及び会計方針の変更の内容

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用しております。

なお、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。

また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

② 経過措置に従った会計処理の概要等

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）、連結会計基準第44-5項（4）及び事業分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

③ 会計方針の変更による影響額

当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第2四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成29年1月1日以降解消されるものに限る)に使用する法定実効税率は、前連結会計年度の32.1%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成29年1月1日から平成30年12月31日までのものは30.8%、平成31年1月1日以降のものについては30.5%にそれぞれ変更されております。

この結果、繰延税金資産の純額が1,049百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等が1,198百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	113,173	125,211
受取手形及び売掛金	107,054	82,905
商品及び製品	10,868	10,741
仕掛品	646	794
原材料及び貯蔵品	9,702	8,212
繰延税金資産	3,845	3,810
その他	12,965	12,878
貸倒引当金	△587	△494
流動資産合計	257,669	244,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	347,944	350,211
減価償却累計額	△263,508	△265,713
建物及び構築物(純額)	84,435	84,498
機械装置及び運搬具	457,401	459,691
減価償却累計額	△384,352	△388,676
機械装置及び運搬具(純額)	73,049	71,014
工具、器具及び備品	27,638	28,139
減価償却累計額	△23,541	△23,700
工具、器具及び備品(純額)	4,096	4,439
土地	115,671	115,534
リース資産	23,298	22,006
減価償却累計額	△14,264	△14,065
リース資産(純額)	9,033	7,941
建設仮勘定	9,982	10,135
有形固定資産合計	296,269	293,563
無形固定資産		
のれん	13,707	13,072
その他	10,535	9,208
無形固定資産合計	24,243	22,281
投資その他の資産		
投資有価証券	70,658	61,090
長期貸付金	445	426
退職給付に係る資産	485	513
繰延税金資産	21,113	22,707
その他	32,831	31,756
貸倒引当金	△2,719	△2,820
投資その他の資産合計	122,815	113,674
固定資産合計	443,328	429,519
資産合計	700,997	673,580

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	78,903	72,640
短期借入金	61,424	60,520
リース債務	3,707	3,181
1年内償還予定の社債	1,371	974
未払法人税等	7,874	8,740
未払費用	38,291	34,061
賞与引当金	4,902	5,065
販売促進引当金	987	1,199
店舗閉鎖損失引当金	1	1
資産除去債務	92	73
その他	42,449	34,665
流動負債合計	240,005	221,124
固定負債		
社債	900	580
長期借入金	39,172	31,364
リース債務	5,768	5,011
役員退職慰労引当金	3,617	3,745
環境対策引当金	144	115
退職給付に係る負債	102,102	101,977
資産除去債務	4,190	4,328
その他	9,480	9,031
固定負債合計	165,376	156,155
負債合計	405,382	377,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,676	9,676
利益剰余金	240,481	246,368
自己株式	△870	△895
株主資本合計	260,302	266,164
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,767	22,027
繰延ヘッジ損益	△7	△17
土地再評価差額金	81	99
為替換算調整勘定	63	△38
退職給付に係る調整累計額	△15,923	△15,102
その他の包括利益累計額合計	11,981	6,967
非支配株主持分	23,331	23,168
純資産合計	295,614	296,300
負債純資産合計	700,997	673,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
売上高	508,652	520,668
売上原価	325,850	328,636
売上総利益	182,801	192,031
販売費及び一般管理費	169,901	172,572
営業利益	12,900	19,458
営業外収益		
受取利息	65	50
受取配当金	534	530
固定資産賃貸料	287	312
持分法による投資利益	7	36
雑収入	638	553
営業外収益合計	1,532	1,483
営業外費用		
支払利息	677	546
為替差損	—	455
雑損失	182	172
営業外費用合計	860	1,174
経常利益	13,573	19,767
特別利益		
固定資産売却益	51	64
投資有価証券売却益	—	443
補助金収入	—	136
特別利益合計	51	644
特別損失		
固定資産除売却損	689	875
減損損失	548	444
その他	149	560
特別損失合計	1,387	1,881
税金等調整前四半期純利益	12,237	18,530
法人税等	8,123	8,587
四半期純利益	4,113	9,943
非支配株主に帰属する四半期純利益	122	544
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,991	9,398

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	4,113	9,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,198	△5,757
繰延ヘッジ損益	△17	△8
為替換算調整勘定	339	△513
退職給付に係る調整額	358	877
持分法適用会社に対する持分相当額	39	△9
その他の包括利益合計	8,917	△5,410
四半期包括利益	13,031	4,532
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,749	4,384
非支配株主に係る四半期包括利益	282	147

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,237	18,530
減価償却費	17,877	17,557
減損損失	548	444
のれん償却額	633	635
貸倒引当金の増減額(△は減少)	102	8
賞与引当金の増減額(△は減少)	495	162
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,499	1,615
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△8	127
受取利息及び受取配当金	△599	△581
支払利息	677	546
補助金収入	—	△136
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△443
持分法による投資損益(△は益)	△7	△36
固定資産除売却損益(△は益)	638	811
売上債権の増減額(△は増加)	24,821	24,343
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,911	1,217
仕入債務の増減額(△は減少)	△7,159	△6,527
未払消費税等の増減額(△は減少)	△5,303	△2,963
その他	△5,944	△2,898
小計	42,421	52,413
利息及び配当金の受取額	600	581
利息の支払額	△703	△556
法人税等の支払額	△7,119	△7,335
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,199	45,102
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△135	1,075
有形固定資産の取得による支出	△17,771	△17,694
有形固定資産の売却による収入	109	237
無形固定資産の取得による支出	△660	△488
投資有価証券の取得による支出	△523	△101
投資有価証券の売却による収入	—	811
貸付けによる支出	△20	△46
貸付金の回収による収入	62	61
その他	833	△155
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,106	△16,300

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	698	△505
リース債務の返済による支出	△2,656	△2,146
長期借入れによる収入	900	2,475
長期借入金の返済による支出	△9,998	△10,608
社債の償還による支出	△687	△717
自己株式の取得による支出	△30	△25
配当金の支払額	△3,510	△3,510
非支配株主への配当金の支払額	△102	△314
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,387	△15,351
現金及び現金同等物に係る換算差額	112	△152
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,817	13,297
現金及び現金同等物の期首残高	112,181	108,716
現金及び現金同等物の四半期末残高	113,999	122,013

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	472,626	31,364	4,660	508,652	—	508,652
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,568	3,451	14,734	20,754	△20,754	—
計	475,195	34,816	19,394	529,406	△20,754	508,652
セグメント利益又は損失(△)	13,414	△1,338	537	12,613	287	12,900

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額287百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	485,913	29,954	4,800	520,668	—	520,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,526	3,390	16,640	23,556	△23,556	—
計	489,440	33,344	21,440	544,225	△23,556	520,668
セグメント利益又は損失(△)	19,468	△983	689	19,174	284	19,458

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額284百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位：百万円)

セグメント名称	区 分	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	48,806	9.6%	50,286	9.7%	1,480	103.0%
	菓 子 パ ン	177,725	34.9	182,014	35.0	4,289	102.4
	和 菓 子	32,957	6.5	33,991	6.5	1,034	103.1
	洋 菓 子	66,643	13.1	66,508	12.8	△ 135	99.8
	調理パン・米飯類	68,158	13.4	72,114	13.8	3,955	105.8
	製菓・米菓・その他商品類	78,334	15.4	80,997	15.5	2,663	103.4
	食 品 事 業 計	472,626	92.9	485,913	93.3	13,287	102.8
	流 通 事 業	31,364	6.2	29,954	5.8	△ 1,410	95.5
	そ の 他 事 業	4,660	0.9	4,800	0.9	139	103.0
	合 計	508,652	100.0	520,668	100.0	12,016	102.4

(2) 主要子会社実績

(単位：百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
(株)不二家(連結)	50,187	50,316	128	0.3%	△ 331	638	969	—%
(株)サンデリカ	49,650	52,307	2,656	5.4	704	1,239	534	75.9
ヤマザキ・ナビスコ(株)	19,117	20,968	1,851	9.7	1,700	2,123	422	24.9
(株)ヴィ・ド・フランス	16,663	17,352	688	4.1	553	587	34	6.3
(株)東ハト	12,357	11,708	△ 649	△ 5.3	224	423	198	88.5

(3) 平成28年12月期第2四半期の単体業績 (平成28年1月1日～平成28年6月30日)

① 単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第2四半期	369,213	2.8	13,208	45.1	14,428	33.5	7,627	99.5
27年12月期第2四半期	359,150	4.2	9,102	28.9	10,803	22.8	3,824	1.8

② 単体財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
28年12月期第2四半期	506,032	264,461
27年12月期	524,026	265,933

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4) 単体販売実績

(単位: 百万円)

期別 品 種 別	前第2四半期 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)		当第2四半期 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	48,306	13.5%	49,776	13.5%	1,470	103.0%
菓子パン	164,958	45.9	168,922	45.7	3,964	102.4
和菓子	32,807	9.1	33,840	9.2	1,032	103.1
洋菓子	45,614	12.7	46,151	12.5	536	101.2
調理パン・米飯類	17,459	4.9	21,654	5.9	4,194	124.0
製菓・米菓・その他商品類	18,612	5.2	21,163	5.7	2,550	113.7
小計	327,759	91.3	341,508	92.5	13,748	104.2
デイリーヤマザキ事業	34,816	9.7	33,344	9.0	△ 1,472	95.8
内部消去	△ 3,426	△ 1.0	△ 5,639	△ 1.5	△ 2,212	—
合計	359,150	100.0	369,213	100.0	10,063	102.8